

街道を歩く

東海道遠江・駿河：10天龍川町—連尺町—若林町



犀ヶ崖古戦場跡

元龜3年(1572)三方ヶ原の戦いで武田軍は徳川軍を追ってこの付近まで侵攻。夜間、地理不案内の武田軍はこの断崖から落ち多数の死者が出た。死者の霊を祀ったのが宗円堂(資料館) 遠州大念仏はこの鎮魂行事。

夏目次郎左衛門吉信の碑
三方ヶ原の戦いで家康の身代わりとなって討死。
犀ヶ崖古戦場跡
三方ヶ原の戦いの勇者本多肥後守忠真の碑

信長の命令で殺された家康の正室築山御前と異父弟久松康俊の墓がある。

三方ヶ原の戦いの時家康が別働隊おいた所。犀ヶ崖の夜襲の時寺を焼き、城炎上を装った。豊川のお稲荷さんは寺の稲荷社から勧請されたという。曹洞宗、市内古刹の一つ。



賀茂真淵記念館

賀茂神社

日本タバコ産業工場

東海旅客鉄道工場

伊場遺跡

古代の砂州を基盤にした遺跡
古墳時代の竪穴住居跡
弥生時代の三重環濠跡
奈良時代の建物跡など

八幡神社

二つ御堂

道路挟んで二つの堂、天治年間(1124-25)の創建。北の堂は平泉の藤原秀衡の愛妾が上洛中の秀衡が病との報で京に向かう途中、秀衡が亡くなったと出会った旅人から聞き、菩提を弔うべく阿弥陀如来を祀る堂を建てた。(死亡は誤報)愛妾はやがて亡くなる。秀衡が帰国の途次、ここで事の次第を知り愛妾の死を悼み南側にお堂を建て薬師如来を安置したという。



北の御堂

浜松宿 見付宿より4里7町

本陣6、脇本陣0、問屋1、旅籠94、町並み東西25町15間余。地名は城東の野口の"颯々松"(ササンザマツ)に由来する。將軍足利義教が富士見に下向のとき「はま松の音はざざんざ」と謡った故事による。家康は関東へ移る前17年間、浜松に居り、遠州経営の中心として繁栄の基礎を築いた城下町、宿場町。宿規模は街道一。

浜松八幡社

家康出陣の時 武運長久を祈願 御旗桶(巨木、家康が隠れた窪穴)



浜松城址

家康公鑑掛松

2代將軍秀忠誕生井戸跡

諏訪神社 五社神社

問屋跡

佐藤本陣跡

川口本陣跡

梅屋本陣跡

旅籠町

子育地蔵尊

菅原町

賀茂神社

伊場遺跡

八幡神社

二つ御堂

北の御堂

賀茂神社

賀茂真淵記念館

伊場遺跡

八幡神社

二つ御堂

北の御堂

賀茂神社

賀茂真淵記念館

伊場遺跡

八幡神社

二つ御堂

北の御堂

賀茂神社

賀茂真淵記念館

伊場遺跡

八幡神社

二つ御堂

北の御堂

[弥次・喜多]浜松宿に入り
"さつきつとあゆむにつれて旅衣
ふきつけられしはままつ風"
子安神社

義経の兄範頼が娘の出産の無事を祈って創建。範頼の母は姫街道池田宿の遊女という。

子安神社

琵琶橋

龍泉寺

駒塚

義経の死後

義経の死後頼朝の意に沿うよう努力するが伊豆修善寺で殺される。寺南東端に供養塔がある。その南200mの畑に範頼の首を運んで来たという愛馬の駒塚がある。

義経の兄範頼の別荘があった所 義経の死後頼朝の意に沿うよう努力するが伊豆修善寺で殺される。寺南東端に供養塔がある。その南200mの畑に範頼の首を運んで来たという愛馬の駒塚がある。

賀茂神社

賀茂真淵の生家。神官岡部正信の3男。11歳の時荷田の姪に習字を学ぶ。31歳で上京し荷田春満に入門。歌、学問に励む。春満没後江戸へ。50歳の時將軍吉宗の次男田安宗武の和学御用係となる。61歳で隠居。著述と門弟の養成に努める。明和6年(1769)江戸で没。江戸時代、国学を確立。(古事記、日本書紀、万葉集を研究、古代の文化思想を明らかにし、そこに生き方の拠り所を求める学問) 国学は契沖・春満が創始。真淵が樹立し、宣長が大成、篤胤が発展させた。宣長と松坂の一夜の出会いが有名。

泉居神社 記念館

祭神賀茂真淵大人命。天保10年(1839)当時の城主水野忠邦と忠邦の国学の師高林方朗の尽力で賀茂神社境内に「泉居翁霊社」が創建されたが大正13年現在地に移転。隣に記念館。

浜松城

室町時代今川氏によって曳馬城が築城される。永禄11年(1568)家康は遠江の今川を駆逐し岡崎を長男信康に任せ浜松へ、城を修築拡張し浜松城とした。曳馬城は米蔵として一部取り入れ、地形の高低差を利用し本丸、二の丸、三の丸・配置した梯郭式のものであった。入城後少しずつ手お加え完成は天正年間(1573-92)。最大の危機は三方ヶ原の戦い。関東へ移るまで17年間、着々と拡張、遠州を本拠地として駿河遠江三甲信ヶ国を支配するまでになった。江戸時代水野忠邦など幕閣中枢を占める大名を輩出したので出世城とも言われた。